

■十勝管内の状況及び学力向上策（小学校数:82校、児童数:2455人）（中学校数:48校、生徒数:2421人）

【教科全体の状況】

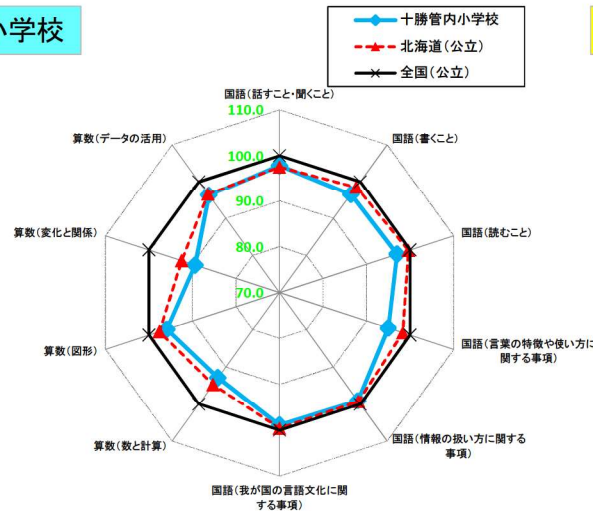
【レーダーチャート】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況
 （「管内の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100」で算出）

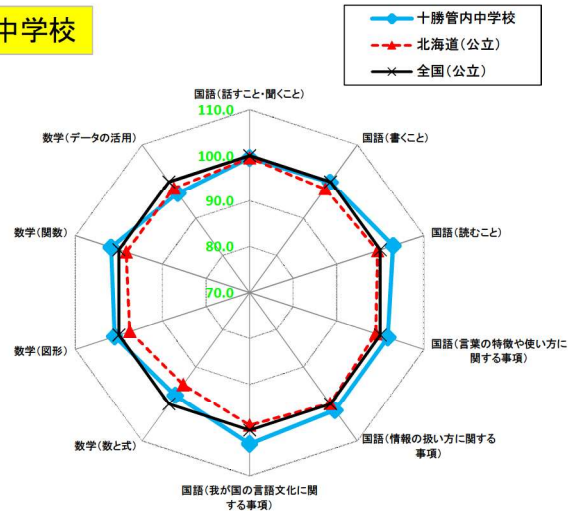
【管内の平均正答率】

	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学
十勝管内	66[65.6]	60[59.6]	59[58.8]	52[52.1]
全国	68[67.7]	63[63.4]	58[58.1]	53[52.5]

小学校

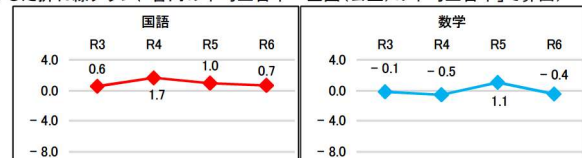
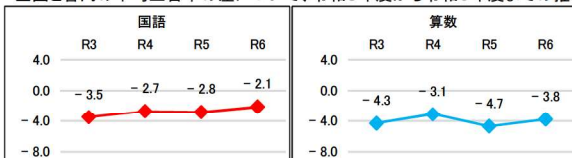


中学校



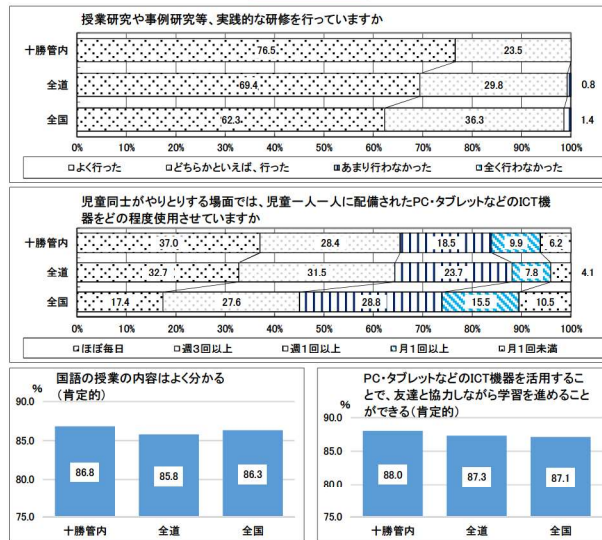
【平均正答率の推移】

全国と管内の平均正答率の差について、令和3年度から令和6年度までの推移を示した折れ線グラフ（「管内の平均正答率－全国（公立）の平均正答率」で算出）

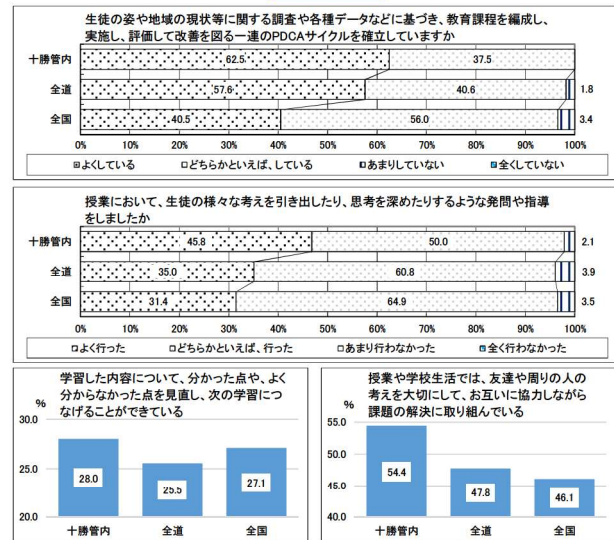


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

多くの学校で、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの学校で、児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させていることにより、友達と協力しながら学習を進めることができると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

多くの学校で、生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していることにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの学校で、授業において、生徒の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域3事項、数学の2領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。

【十勝管内の学力向上策】

1. 管内教育の重点（学力）

- 検証改善サイクルの実質化・迅速化【①】
 - ・各種調査や学習評価による児童生徒の適切な実態把握に基づく検証改善サイクルの実質化・迅速化
 - ・各種調査や学習評価を基にした、②③の検証・改善を図るスケジュールの明確化
- 交流場面の充実を図った授業改善【②】
 - ・他者との交流等を通して、考えをまとめ、表現する場面において、ICTを活用した授業展開の工夫
- 家庭学習及び読書活動の充実【③】
 - ・家庭学習の目的の明確化、ICTを活用した児童生徒一人一人に応じた学習習慣の定着

2. 具体的な改善策

- 検証改善サイクルの実質化・迅速化【①】
 - 〈各種調査や学習評価を基にしたPDCAサイクルの実質化・迅速化〉
 - ・教育委員会訪問や学校訪問、EBE協議会において、「ほっかいどうチャレンジテスト」の活用について、次の視点から指導助言する。
 - (1) 第1四分位に満たない層の児童生徒への手立てを検討・実施
 - (2) 年複数回、同集団の変容による取組の評価
 - ・ウェルビーイングの向上を見取るための指標と関連付けた検証改善サイクルの充実を図る。
- 交流場面の充実を図った授業改善【②】
 - 〈考えをまとめ、表現する学習活動の工夫〉
 - ・学校訪問等において、次の視点から指導助言する。
 - (1) 知識及び技能等の身に付けたことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動の重要性
 - (2) 交流の視点の明確化と交流後に自身の考えを加筆・修正する場面の設定
 - (3) 交流場面におけるICTの効果的な活用
 - (4) 指導と評価の一体化による交流場面の充実
- 家庭学習及び読書活動の充実【③】
 - 〈ICTを活用した家庭学習の充実を図る取組〉
 - ・学校訪問等において、次の視点から指導助言する。
 - (1) 発達段階に応じた家庭学習の目的の明確化
 - (2) ICTを活用した、学習状況の視覚化等による家庭学習の自己決定の場面の設定
 - (3) 授業との連動を図った家庭学習の充実
 - 〈読書活動の充実〉
 - ・社会教育指導班との連携による学校訪問等における学校図書館等の環境に係る指導助言を行う。

3. 具体的な取組計画

月	① 検証改善サイクルの実質化・迅速化	② 交流場面の充実を図った授業改善	③ 家庭学習及び読書活動の充実
4	P P【市町村教育委員会訪問(計画訪問)】 ・各種調査や学習評価を基にしたPDCAサイクルの重要性について説明し、各委員会の理解を深める。		
5	D P【EBE協議会】 ・管内教育推進の重点について説明し、各学校の理解を深めるとともに、自校の3つの重点に係る取組の明確化を図る。 ・検証改善サイクルのスケジュールを明確にする方策 ・授業改善を推進する協議の場の設定 ・家庭学習の目的		
6	C CA◆重点項目に係るアンケート ・十勝の教育の重点に係る各学校の取組状況の把握 ・学校全体で改善を図る内容の検討	D【学校訪問(計画訪問)】 ・各学校の検証改善サイクルのスケジュールを把握するとともに、各学校の課題や取組の明確化を図る。	D【学校訪問(計画訪問)】 ・読書環境の把握
7		D【学校訪問(要請訪問)】 ・考えをまとめ、表現する学習活動に係る改善ポイントについて、教職員の理解を深める。	
8	A CA◆チャレンジテストの結果分析		
9	CA◆全国学力・学習状況調査の結果 ・管内の学力・学習状況の把握 ・管内の成果と課題、改善策の検討	D【市町村教育委員会訪問(要請訪問)】 ・全国学力・学習状況調査の結果分析及び各教育委員会の課題や取組の改善方策の明確化に向けた教育委員会の取組への支援	
10	P AP【EBE協議会】 全国学力・学習状況調査の結果分析から、十勝管内の成果と課題、改善方策を提示するとともに、自校の取組の改善点を明確にする。		
11	D ・課題と改善方策の明確化、全教職員の共通理解を図る取組 ・課題改善に向けた交流場面の指導の充実 ・児童生徒の自己決定による家庭学習及び読書活動の充実		D【各種指定事業におけるICTの効果的な活用実践の普及】 ・新しいかたちの学びの授業力向上推進事業等の取組の普及を図り、各学校のICTを効果的に活用した取組についての一層の理解を深める。
12	C CA◆チャレンジテストの結果分析		
1	CA◆重点項目に係るアンケート ・今年度の取組に係る成果と課題 ・次年度に向けた改善策の検討		
2		AP【市町村教育委員会訪問(計画訪問)】 ・今年度の成果と課題、次年度の取組の方向性を明確にする	
3	CA◆チャレンジテストの結果分析		

R7.Plan

重点地域における指導・助言